

理学療法学科・作業療法学科 2年

授業科目名	運動学演習Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	運動学演習Ⅱ
担当講師	橋本 宜昭
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	<p>方向目標 運動学を実践的に(再)学習することで運動学を身につける。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各関節の正常な構造と機能を説明できる ・実習で得られた結果を、運動学的に解釈できる ・身体運動・動作の特徴や仕組みを説明できる ・計測手法を用いて測定できる
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢の評価（実習） ・肩甲帯・肩（実習） ・手関節・手指（実習） ・骨盤帯・股関節 ・膝・下腿 ・足関節・足部（実習） ・運動連鎖 ・歩行（実習） ・バランスについて
テキスト 参考書	<p>基礎運動学 第7版：医歯薬出版株式会社</p> <p>その他：適宜必要文献</p>
評価の方法	<p>レポート</p> <p>筆記試験</p>
受講上の注意	座学・実技形式（Webにて実施する場合あり）

理学療法学科・作業療法学科 2 年

授業科目名	整形外科学Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	整形外科学Ⅱ
担当講師	高橋 欣吾・中居 祐大
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 医師 》
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肩関節 2. 肘関節 3. 手関節及び手指 4. 股関節 5. 膝関節 6. 足関節 7. 骨折総論（救命救急を含む） 8. 骨折外傷各論（1） 9. 骨折外傷各論（2） 10. 末梢神経 11. 脊髄損傷 12. スポーツ障害 13. 手術方法について（1） 14. 手術方法について（2） 15. 定期試験 <p>高橋先生：1～3、5～9 中居先生：4、10～14</p>
テキスト 参考書	標準整形外科学 第16版
評価の方法	試験結果による
授業の形式 受講上の注意	座学 (Webにて実施する場合あり)

理学療法学科・作業療法学科2年

授業科目名	神経内科学Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	神経内科学Ⅱ	
担当講師	西口 皓喜 國近 敏伸 傳 秋光	
実務経験	西口 皓喜：☑有 ☐無 《関連資格：理学療法士》 國近 敏伸：☑有 ☐無 《関連資格：作業療法士》 傳 秋光：☑有 ☐無 《関連資格：医師》	
授業の目的	神経疾患各論について理解する	
授業の概要	第1回 西口担当	認知症 《到達目標》 ①：4大認知症の病態と症状の違いを説明できる。 ②：中核症状と周辺症状（BPSD）を区別し説明できる。 ③：認知症患者へのリハビリの留意点と対応を説明できる。
	第2回 西口担当	錐体外路の変性疾患・変性疾患・脱髄疾患 《到達目標》 ①：パーキンソン病の病態と四大症状を説明できる。 ②：代表的な神経変性疾患の病態と運動障害を説明できる。
	第3回 西口担当	末梢神経障害・てんかん 《到達目標》 ①：代表的な末梢神経障害の成因と主要症状を説明できる。 ②：てんかんの病態メカニズムと発作の分類を説明できる。 ③：末梢神経障害のリハビリとてんかんの対応を説明できる。
	第4回 西口担当	筋疾患 《到達目標》 ①：進行性筋ジストロフィーの病態と進行過程を説明できる。 ②：その他の主な筋疾患の病態と特有の症状を説明できる。 ③：筋疾患に対するリハビリのリスク管理を説明できる。
	第5回 西口担当	小児神経疾患 《到達目標》 ①：脳性麻痺の定義、原因、病型分類を説明できる。 ②：小児神経疾患の病態と合併症を説明できる。 ③：正常発達を理解し、小児リハビリの基本を説明できる。
	第6回 西口担当	廃用症候群と誤用症候群、合併症 《到達目標》 ①：廃用症候群の定義と各器官に生じる変化を説明できる。 ②：誤用症候群の発生メカニズムと具体例を説明できる。 ③：廃用・誤用症候群の予防策とリスク管理を説明できる。
	第7回 國近担当	脳血管障害① 《到達目標》 ①：脳血管障害の分類と病因、特徴、治療法が答えられる ②：急性期・回復期のリハビリテーションについて答えられる ③：回復過程を説明できる
	第8回 國近担当	脳血管障害② 《到達目標》 ①：共同運動の分離する過程をBrunnstrom stageに従って説明できる。 ②：各期におけるリハビリテーションの内容を挙げられる

第9回 國近担当	脳腫瘍・外傷性脳損傷 《到達目標》 ①：脳腫瘍の種類ごとの好発部位、症状、治療法、予後が答えられる ②：脳挫傷とびまん性軸索損傷の発症メカニズムを説明できる ③：それぞれの好発部位、症状を説明できる
第10回 國近担当	脊髄損傷 《到達目標》 ①：代表的な脊髄損傷の評価と髄節レベルでの予後を答えられる ②：随伴症状、合併症とその対応について答えられる
第11回 國近担当	感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患 《到達目標》 ①：代表的な病原微生物をウイルス、菌、動物界に分類できる ②：HIV・脳炎などの症状、治療、予後が答えられる ③：栄養欠乏の代表的な例をあげ、症状が説明できる
第12回 國近担当	排尿障害・性機能障害 《到達目標》 ①：神経因性膀胱の原因、症状、検査について説明できる ②：排尿中枢の機能分担を説明できる ③：性機能に関する神経系とホルモンについて答えられる
第13・14回 傳担当	画像について 《到達目標》 ①：各種画像の特徴を説明することができる ②：画像から障害部位や機能障害・能力障害を予測することができる
第15回	まとめ・確認テスト
テキスト 参考書	標準理学療法学・作業療法学 基礎専門分野 「神経内科学」 第6版
評価の方法	定期試験による（60点以上を合格とする）
授業の形式 受講上の注意	座学（Webにて実施する場合もある）

はくほう会医療専門学校赤穂校

理学療法・作業療法学科2年

授業科目名	精神医学 I
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	精神医学 I						
担当講師	塚原健司						
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 精神保健福祉士・公認心理士 》						
授業の目的	・OT・PTとして業務を進めていく上で必要な精神医学の理解を深める。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・治療的な関わりとは 2 ICFとは・ICD-10とDSM-V 3 脳科学 4 認知症 I 5 認知症 II 6 依存症 I 7 依存症 II 8 依存症 III 9 統合失調症 I 10 統合失調症 II 11 統合失調症 III 12 摂食障害 13 予備日 14 期末テスト対策 15 期末テスト <p>・学習の進捗や状況によって変更することもあります。 ・適時DVDや事例などの資料も利用して分かり易い講義になるように努力します。</p>						
テキスト 参考書	臨床につながる精神医学 渡辺雅幸 医歯薬出版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学						
評価の方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">授業態度</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>期末テスト</td> <td style="text-align: right;">50%</td> </tr> </table>	授業態度	20%	レポート	30%	期末テスト	50%
授業態度	20%						
レポート	30%						
期末テスト	50%						
授業の形式 受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には講義形式ですがグループワークもあります。積極的な授業への参加を期待します。 ・Webにて講義を行う場合もあります。 						

理学療法・作業療法学科 2年

授業科目名	薬理学
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	薬理学																																										
担当講師	増田 智先																																										
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 薬剤師 》																																										
授業の目的	リハビリテーションの効果を発揮するうえで、薬剤を知ることは、とても重要です。薬理学を学び薬の主作用・副作用を理解し、副作用について早期発見できるようになり、安全にリハビリテーションを進めていけるようになりましょう。地域包括ケアシステムの一員となり多職種連携の中でリハ職として薬剤に関して意見交換できるようにしましょう。																																										
授業の概要	<p style="text-align: center;">理学療法・作業療法学科 2年「薬理学」</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">日付</th> <th style="width: 10%;">時限</th> <th style="width: 75%;">授業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">5月11日</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>1 薬理学の基礎知識1第1~2章</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>2 薬理学の基礎知識2第3~4章</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">5月18日</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>3 薬理学の基礎知識3第5~6章</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>4 臨床薬理学12</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">5月25日</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>5 感染・炎症の制御と薬物療法・神経疾患の薬物療法</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>6 精神疾患・循環器系疾患の薬物療法</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">6月8日</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>7 疼痛の制御と薬物療法・注意すべき常用される薬物</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>8 総合学習</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">6月15日</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>9 定期試験</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>10 演習1添付文書を使って身近な薬を調べてみよう1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">6月22日</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>11 演習2添付文書を使って身近な薬を調べてみよう2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>12 演習3高齢者施設のリハ薬剤1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">6月29日</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>13 演習4高齢者施設のリハ薬剤2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>14 演習5 回復期リハ病棟のリハ薬剤1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7月6日</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>15 演習6 回復期リハ病棟のリハ薬剤2</td> </tr> </tbody> </table>		日付	時限	授業内容	5月11日	4	1 薬理学の基礎知識1第1~2章	5	2 薬理学の基礎知識2第3~4章	5月18日	4	3 薬理学の基礎知識3第5~6章	5	4 臨床薬理学12	5月25日	4	5 感染・炎症の制御と薬物療法・神経疾患の薬物療法	5	6 精神疾患・循環器系疾患の薬物療法	6月8日	4	7 疼痛の制御と薬物療法・注意すべき常用される薬物	5	8 総合学習	6月15日	4	9 定期試験	5	10 演習1添付文書を使って身近な薬を調べてみよう1	6月22日	4	11 演習2添付文書を使って身近な薬を調べてみよう2	5	12 演習3高齢者施設のリハ薬剤1	6月29日	4	13 演習4高齢者施設のリハ薬剤2	5	14 演習5 回復期リハ病棟のリハ薬剤1	7月6日	4	15 演習6 回復期リハ病棟のリハ薬剤2
日付	時限	授業内容																																									
5月11日	4	1 薬理学の基礎知識1第1~2章																																									
	5	2 薬理学の基礎知識2第3~4章																																									
5月18日	4	3 薬理学の基礎知識3第5~6章																																									
	5	4 臨床薬理学12																																									
5月25日	4	5 感染・炎症の制御と薬物療法・神経疾患の薬物療法																																									
	5	6 精神疾患・循環器系疾患の薬物療法																																									
6月8日	4	7 疼痛の制御と薬物療法・注意すべき常用される薬物																																									
	5	8 総合学習																																									
6月15日	4	9 定期試験																																									
	5	10 演習1添付文書を使って身近な薬を調べてみよう1																																									
6月22日	4	11 演習2添付文書を使って身近な薬を調べてみよう2																																									
	5	12 演習3高齢者施設のリハ薬剤1																																									
6月29日	4	13 演習4高齢者施設のリハ薬剤2																																									
	5	14 演習5 回復期リハ病棟のリハ薬剤1																																									
7月6日	4	15 演習6 回復期リハ病棟のリハ薬剤2																																									
テキスト参考書	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 内山靖、藤井浩美、立石雅子編 2020 医師薬出版株式会社																																										
評価の方法	定期試験（60%）＋演習の評価（40%） 60点以上																																										
授業の形式 受講上の注意	基本は講義形式で行う																																										

理学療法学科・作業療法学科 2年

授業科目名	栄養学
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	栄養学
担当講師	八木拓磨
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業の目的	栄養素の種類、体内における働き、性別やライフステージ毎の必要量を理解し、健康や身体機能の維持・増進との関連について学習を行う。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションにおける栄養管理の必要性 ・栄養療法に必要な生化学・栄養学 ・運動と栄養 ・疾患と栄養 ・栄養評価 ・主な病態の栄養療法 ・サルコペニア・フレイルの栄養療法 ・グループディスカッション
テキスト 参考書	配布資料
評価の方法	筆記試験 グループディスカッション
授業の形式 受講上の注意	座学、実技形式

作業療法学科 2 年

授業科目名	作業学演習Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業学演習Ⅱ	
担当講師	赤堀 将孝	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①作業基盤や作業焦点の分析を実際に行うことができる。 ②病態・疾患の特徴に応じた作業分析ができる。 ③体験・観察したことを分析し、記録することができる。	
授業の概要	第 1-3 回	理論の概要について理解し、理論に基づく評価を学ぶ <到達目標> ①理論に概要について説明できる ②各理論に基づいた評価について理解できる
	第 4-6 回	理論の再確認と雑誌作業療法の実践報告にて症例提示 <到達目標> ①症例情報を ICF にまとめることができる ②作業療法理論を用いて全体像を整理することができる
	第 7-10 回	検討症例に対する作業活動の作成 <到達目標> ①具体的なリーズニングをすることができる ②作業を支援するための器具を作成することができる
	第 11-14 回	支援の実際・実演 <到達目標> ①自ら作成した作業を実演できる ②他者の作業に質問ができる
	第 15 回	まとめ <到達目標> ①作業基盤による事例検討について発表を踏まえて再構築する
テキスト 参考書	・作業療法理論の教科書、作業で語る事例報告 ・準備資料（配布資料）	
評価の方法	成果物および課題レポート等の合計が 60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループ演習、オンライン講義など	

作業療法学科 2年

授業科目名	作業療法評価法Ⅳ
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業療法評価法Ⅳ	
担当講師	亀山 一義	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格：認定作業療法士・保健学博士 》	
授業の目的	「作業療法は評価に始まり評価に終わる」と言われるほど作業療法評価は重要である。本講義では、対象者を理解することに不可欠な作業療法評価を理解し、実施できるようことを目的とする。	
授業の概要	第 1-3 回	<p>感覚検査 《到達目標》</p> <p>①：感覚の種類と伝導路を理解する。 ②：感覚検査の概要を理解し、説明できる。 ③：感覚検査の意義と目的を説明できる。 ④：感覚検査を実施できる。</p>
	第 4-5 回	<p>反射検査 《到達目標》</p> <p>①：反射の経路を理解する。 ②：腱反射・表在反射・病的反射を理解し、説明できる。 ③：反射検査を実施できる。</p>
	第 6-7 回	<p>姿勢反射検査（バランス検査を含む） 《到達目標》</p> <p>①：姿勢制御について理解する。 ②：姿勢反射検査の意義と目的を理解し、説明できる。 ③：姿勢反射検査を実施できる。</p>
	第 8 回	<p>筋緊張検査 《到達目標》</p> <p>①：異常筋緊張のメカニズムを理解する。 ②：筋緊張検査の意義と目的を理解し、説明できる。 ③：筋緊張検査を実施できる。</p>
	第 9 回	<p>協調性検査 《到達目標》</p> <p>①：協調性を定義し、説明できる。 ②：失調症を理解する。 ③：協調性検査の意義と目的を理解し、説明できる。 ④：協調性検査を実施できる。</p>
	第 10-11 回	<p>脳神経検査 《到達目標》</p> <p>①：脳神経の機能を理解する。 ②：脳神経テストの意義と目的を理解し、説明できる。 ③：脳神経検査を実施できる。</p>
	第 12 回	<p>摂食・嚥下機能検査 《到達目標》</p> <p>①：摂食・嚥下機能を理解し、説明できる。 ②：摂食・嚥下検査の意義と目的を理解し、説明できる。</p>

		③：摂食・嚥下機能検査を実施できる。
	第 13-14 回	上肢機能検査 《到達目標》 ①：上肢機能の概要を説明できる。 ②：上肢機能検査の意義と目的を理解し、説明できる。 ③：上肢機能検査を実施できる。
	第 15 回	テスト
	*講義の進捗により講義内容が前後する場合があります。	
テキスト 参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学	
評価の方法	テスト（筆記）で 60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学および実技（場合により web での講義あり）	

はくほう会医療専門学校赤穂校

作業療法学科 2 年

授業科目名	身体障害治療学 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	身体障害治療学 I
担当講師	武田 照麻
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《関連資格 作業療法士》
授業の目的	身体障害に対する作業療法の治療原理を理解し、各疾患・障害に対する治療の実際を学習していく。
授業の概要	<p>1. 身体障害治療学概論 到達目標：身体機能作業療法の概要が理解できる。</p> <p>2. 身体機能作業療法学の基礎 到達目標：対象者に応じた身体機能作業療法ができるようになるために、治療・指導・援助の概要が理解できる。</p> <p>3. 身体機能障害の治療原理 到達目標：身体機能作業療法を実施できるようになるために、治療原理が理解できる。</p> <p>ボディメカニクス 関節可動域 筋力・筋持久力 筋緊張 不随意運動 協調運動障害 知覚再教育 廃用性症候群 物理療法 摂食・嚥下障害</p>
テキスト 参考書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 医学書院 (eテキスト)
評価の方法	課題レポート、定期試験の総合成績
授業の形式 受講上の注意	対面講義形式(場合により Web オンラインで行う)

作業療法学科 2 年

授業科目名	身体障害治療学 I 演習
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	身体障害治療学 I 演習
担当講師	武田 照麻
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《関連資格 作業療法士》
授業の目的	身体障害に対する作業療法の治療原理を理解し、各疾患・障害に対して治療の実技を学習していく。
授業の概要	<p>教育目標：身体機能作業療法を実施できるように治療原理を理解して技能を習得する。</p> <p>行動到達目標：各治療の実技を模倣することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常作業への介入指導 2. ボディメカニクス 3. 関節稼動域の維持・拡大 4. 筋力・筋持久力の維持・増強 5. 筋緊張とその治療 6. 不随意運動とその治療 7. 協調運動障害とその治療 8. 知覚再教育 9. 廃用性症候群とその対応 10. 物理療法の基礎 11. 摂食・嚥下障害の治療 12. 試験
テキスト 参考書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 医学書院 (e テキスト)
評価の方法	課題レポート、確認試験、定期試験の総合成績 ※試験は実技・筆記
授業の形式 受講上の注意	実技中心（場合により Web オンラインで行う） 注意：服装は実習着とする。

作業療法学科 2 年

授業科目名	精神障害治療学 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	精神障害治療学 I
担当講師	大谷 将之
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》
授業の目的	①人と病いの関係性について学び、精神科作業療法を理解する。 ②精神科作業療法について、これまでの精神医療を踏まえたうえで理解を深める。 ③「作業」の特性を学び、人を作業的存在として捉えることについて理解する。 ④精神科作業療法の実施するプロセスを理解する
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・人と病いについて ・精神機能作業療法の基本的視点について ・精神科作業療法の歴史 ・作業の特性、目的と手段 ・人を作業的存在として捉える ・精神科作業療法の実施するプロセスについて
テキスト 参考書	精神機能作業療法学 (WEB 教科書) 作業で語る事例報告 資料配布
評価の方法	定期試験, レポート
授業の形式 受講上の注意	座学・グループワーク 復習をしっかりと行ってください。 分からないことは質問してください。

作業療法学科 2 年

授業科目名	精神障害治療学 I 演習
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期、1 単位、30 時間
成績評価方法	筆記試験

授業科目名	精神障害治療学 I 演習
担当講師	山本悠、西木悠衣
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》
授業の目的	精神科医療及び精神科作業療法がどのように確立されたかを歴史や制度の変遷から知り、障害特性と課題を理解した上で、その作業療法過程と介入方法について学ぶ。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（講義概要） 2. 精神科医療と作業療法の歴史について（関連法規・制度含む） 3. 精神科作業療法について 4. 各疾患の概論、評価、作業療法について <ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症 ・気分障害 ・てんかん ・パーソナリティ障害
テキスト 参考書	精神機能作業療法学（WEB 教科書） 資料配布
評価の方法	筆記試験
授業の形式 受講上の注意	座学およびグループワーク

作業療法学科 2 年

授業科目名	高次神経障害治療学
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	高次神経障害治療学	
担当講師	渡部 静, 赤堀 将孝	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①高次脳機能障害の基礎知識、病態や発生機序、治療原理について説明できる ②高次脳機能の各種評価方法を実践し、作業療法との関連を理解し実践できる ③在宅で生活している高次脳機能障害当事者・家族の生活課題を理解できる	
授業の概要	第 1 回	高次脳機能障害の基礎 <到達目標> ①高次脳機能の概念と定義が理解できる ②高次脳機能障害の基本的評価・アプローチの概要が理解できる
	第 2-3 回	脳画像 <到達目標> ①高次脳機能に関わる脳の解剖生理の基本が理解できる ②CT、MRI の画像から基本的な部位を同定できる ③各認知の領域を担う神経ネットワークの基本が理解できる
	第 4-7 回	注意障害・記憶障害・遂行機能障害 <到達目標> ①注意障害の概要を知り、評価や介入を上げることができる ②記憶障害の概要を知り、評価や介入を上げることができる ③遂行機能障害の概要を知り、評価や介入を上げることができる
	第 8-15 回	高次脳機能障害の家族会の計画・広報・運営・参加 <到達目標> ①高次脳機能障害当事者と家族とコミュニケーションがとれる ②高次脳機能障害当事者と家族の生活課題を説明できる ③広報や運営の準備・当日の運営ができる
テキスト 参考書	配布資料 能登真一 編：「高次脳機能作業療法学」第 2 版. 医学書院.	
評価の方法	①筆記テスト（第 1-7 回の授業内容）（配点：60 点） ②レポート課題（配点：40 点） 合格基準は、①36 点以上かつ①と②の合計が 60 点以上とする	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループワーク、オンライン講義など 注) 授業概要については順番が前後する可能性がある	

作業療法学科 2 年

授業科目名	発達障害治療学 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	発達障害治療学 I	
担当講師	宍戸 聖弥	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①発達障害に対する知識を深め、リハビリテーションや療育の役割を理解する。 ②発達障害児に対するリハビリテーションの評価、治療計画の作成、援助の方法などについて学ぶ。	
授業の概要	第 1-3 回	発達障害や定型発達の概要・評価について <到達目標> ①発達障害に対する作業療法の理念や役割などを知ることができる。 ②定型発達の学びを通し、子どもの評価や支援の基礎が理解できる。
	第 4-9 回	ダウン症候群のある児のリハビリテーション <到達目標> ①ダウン症候群の疾患概要について理解できる。 ②ダウン症候群の評価やリハビリテーションを理解できる。
	第 10-14 回	脳性麻痺のある児のリハビリテーション <到達目標> ①脳性麻痺の疾患概要について理解できる。 ②脳性麻痺の評価やリハビリテーションを理解できる。
	第 15 回	定期テスト（第 1 回から 14 回で学んだ内容について）
テキスト 参考書	<必須> ・発達過程作業療法学／医学書院（電子書籍） <参考> ・岩崎清隆：発達障害の作業療法 基礎編 第 3 版 / 三輪書店	
評価の方法	レポート課題や小テスト、定期テストの得点合計が 60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループワーク、オンライン講義など。 場合によって、講義回の順番や内容に変更あり。	

作業療法学科 2 年

授業科目名	日常生活活動演習 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	日常生活活動演習 I	
担当講師	渡部 静	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	① 人の日常生活活動について理解できる。 ② ADL 評価について理解し、必要に応じて評価を選択することができる。 ③ 作業工程分析と分析結果からアセスメントすることができる。	
授業の概要	第 1 回	ADL 総論 《到達目標》 ①ADL 評価の視点を理解する。 ②ADL に対する作業療法の流れを理解する。 ③ADL の課題を解決するための援助方法を理解する。
	第 2-6 回	食事動作 《到達目標》 ①食事動作の評価の視点を理解する。 ②食事動作を工程に分けて観察・分析することができる。 ③食事動作に対する作業療法の流れを理解する。
	第 7-10 回	トイレ動作 《到達目標》 ①トイレ動作の評価の視点を理解する。 ②トイレ動作を工程に分けて観察・分析することができる。 ③トイレ動作に対する作業療法の流れを理解する。
	第 11-14 回	更衣動作 《到達目標》 ①更衣動作の評価の視点を理解する。 ②更衣動作を工程に分けて観察・分析することができる。 ③更衣動作に対する作業療法の流れを理解する。
	第 15 回	確認テスト 試験範囲は第 1-14 回とする
テキスト 参考書	配布資料 標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学 第 2 版 医学書院 (電子版)	
評価の方法	提出物 (20 点)、発表 (30 点)、テスト (50 点)	
授業の形式 受講上の注意	座学、演習 (場合により web での講義もあり)	

作業療法学科 2年

授業科目名	義肢装具学 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	義肢装具学 I
担当講師	屋我 平直
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 義肢装具士 》
授業の目的	義肢学の基礎を学ぶ
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義肢装具の支給体制 ・ 義肢の分類 ・ 義肢の構成要素 ・ 切断原因、切断レベル ・ 義手 (肩、上腕、前腕、手部、手指、筋電義手) ・ 下腿義足 (ソケット、足継手・足部、アライメント) ・ 大腿義足 (ソケット、膝継手、アライメント) ・ 股義足、膝義足、足根義足
テキスト 参考書	佐伯 覚 編 義肢装具学 医学書院
評価の方法	筆記試験
授業の形式 受講上の注意	座学形式 (Web にて実施する場合があります)

作業療法学科 2年

授業科目名	地域作業療法学
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	地域作業療法学
担当講師	赤堀 将孝
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》
授業の目的	地域へ関わるための必要な知識を身につけ、地域で実践するための演習を通して地域包括ケアシステムにおける OT の役割を学ぶ。
授業の到達目標	知識としての地域包括ケアシステムを理解し、具体的な地域課題を抽出できる思考過程を経験し、行動できる技術を修得する。 地域で活動するための作業療法士の役割を理解する。
授業の概要	10 コマ程度を関西福祉大学社会福祉学部の谷川ゼミ生と合同で実施する。 実施内容は、職種間連携のための職種理解に関する演習、車椅子に乗り赤穂市内のバリアフリー状況の把握、地域在住高齢者との交流を予定している。 残り 5 コマは、上記の準備等となる。 4 月は以下の 2 回、5 月より毎週行う 4 月 14 日：授業説明、WheeLog！アプリの使い方、職種理解（作業療法と社会福祉の関係） 4 月 28 日：アプリの使い方・実践は外に 5 月 12 日～：大学との連携授業開始
テキスト	・なし（必要があればその都度資料配布する）
評価の方法	毎回の出席状況と 2 回の提出物、最終的なプレゼンテーションが実施できること。 課題提出状況と出席状況によりは 50 点、プレゼンテーションの評価は 50 点とする。
授業の形式 受講上の注意	講義と演習を混ぜて構成しています。 学外演習を実施しますが、事前に十分な説明をおこないます。 ・場合により、オンラインにて実施する。

作業療法学科2年

授業科目名	生活環境論Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	生活環境論Ⅱ	
担当講師	國近敏伸	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	<ol style="list-style-type: none"> ① 疾患別にみた福祉住環境整備の方法について学ぶ ② 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方について学ぶ ③ 福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識を身に付ける ④ 福祉用具の活用について学ぶ 	
授業の概要	第 1-14 回	<p>< 学習課題 ></p> <p>P145 内部障害とリハビリテーション～p328 福祉用具まで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害別にみた福祉住環境整備。各疾患の特徴とそれに対する環境整備を学ぶ。 ・自立支援を効果的に進める為のマネジメントや多職種連携について学ぶ ・生活行為別の福祉住環境整備の基本を学ぶ ・建物の構造、施工、設備などの基礎知識を身に付ける <p>< 到達目標 ></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各疾患に対する環境整備を例に挙げて答えることができる ② 相談援助の過程を説明でき、多職種連携について具体的な職種とのつながりを答えることができる ③ 段差解消やスペースの配慮といった基礎知識と効果的に行う方法について具体例をあげ説明することができる ④ 手すりの高さや設置場所など生活場面における設定について答えられる ⑤ 福祉用具の適応評価のポイントが例をあげて答えられる
	第 15 回	<p>定期試験 ○×形式の問題(40～50 問)</p> <p>テキスト第5章(最終章)まで</p>
テキスト参考書	改訂版福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級公式テキスト改訂 7 版 配布資料・準備資料	
評価の方法	定期試験を実施(合格基準:6 割で合格)	
授業の形式 受講上の注意	7月に行われる検定試験受験は(東京商工会議所)は希望者のみとする	